

300 および 500 シリーズ マネージド スイッチで コンソール接続を使用した PuTTY 経由での CLI へのアクセス

目的

スイッチは、コマンドラインインターフェイス(CLI)からアクセスおよび設定できます。CLIにアクセスすると、端末ベースのウィンドウにコマンドを入力できます。端末コマンドの経験が豊富なユーザにとっては、Web設定ユーティリティを操作する方法が簡単になる場合があります。管理者パスワードの回復などの特定のタスクは、CLIからのみ実行できます。CLIにアクセスするには、SSHクライアントを使用する必要があります。PuTTYは標準のSSHクライアントで、こちらから入手 [できます](#)。このドキュメントでは、PuTTYを使用してスイッチに接続していることを前提としています。

このドキュメントの目的は、スイッチのコマンドラインインターフェイス(CLI)およびセキュアシェル(SSH)クライアントにアクセスする方法を示すことです。

注：Cisco 200シリーズSmall BusinessマネージドスイッチはCLIをサポートしていません。

該当するデバイス | ソフトウェアバージョン

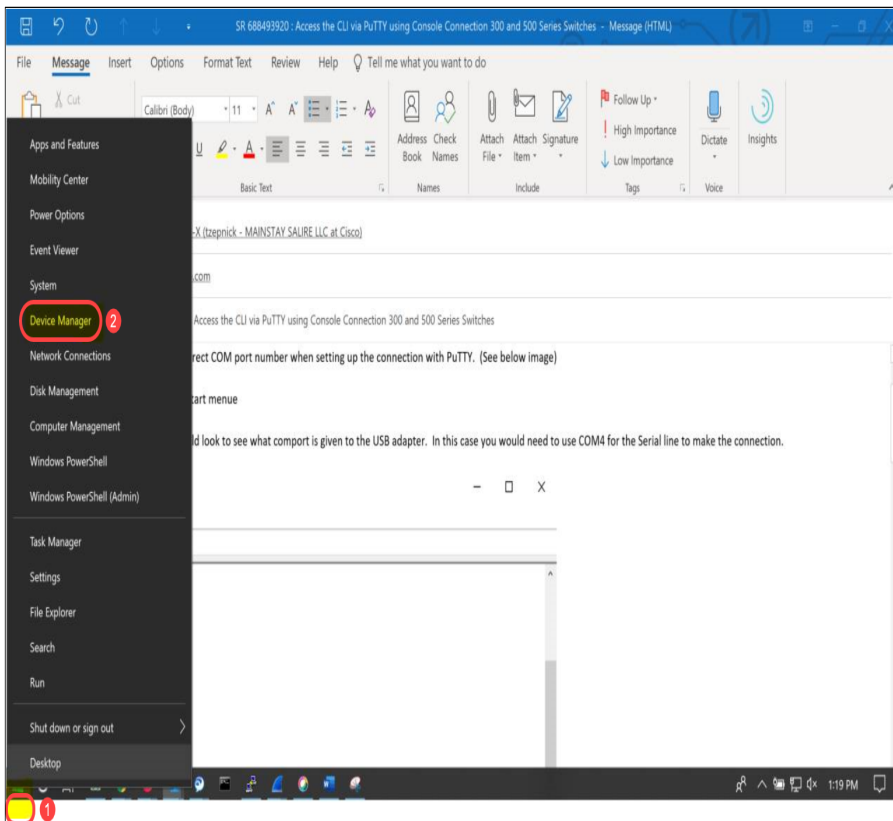
- Sx300シリーズ | 1.2.7.76 (最新の[ダウンロード](#))
- Sx350シリーズ | 1.2.7.76 (最新の[ダウンロード](#))
- SG350Xシリーズ | 1.2.7.76 (最新の[ダウンロード](#))
- Sx500シリーズ | 1.2.7.76 (最新の[ダウンロード](#))
- Sx550Xシリーズ | 1.2.7.76 (最新の[ダウンロード](#))

コンソール接続によるPuTTY経由のCLIへのアクセス

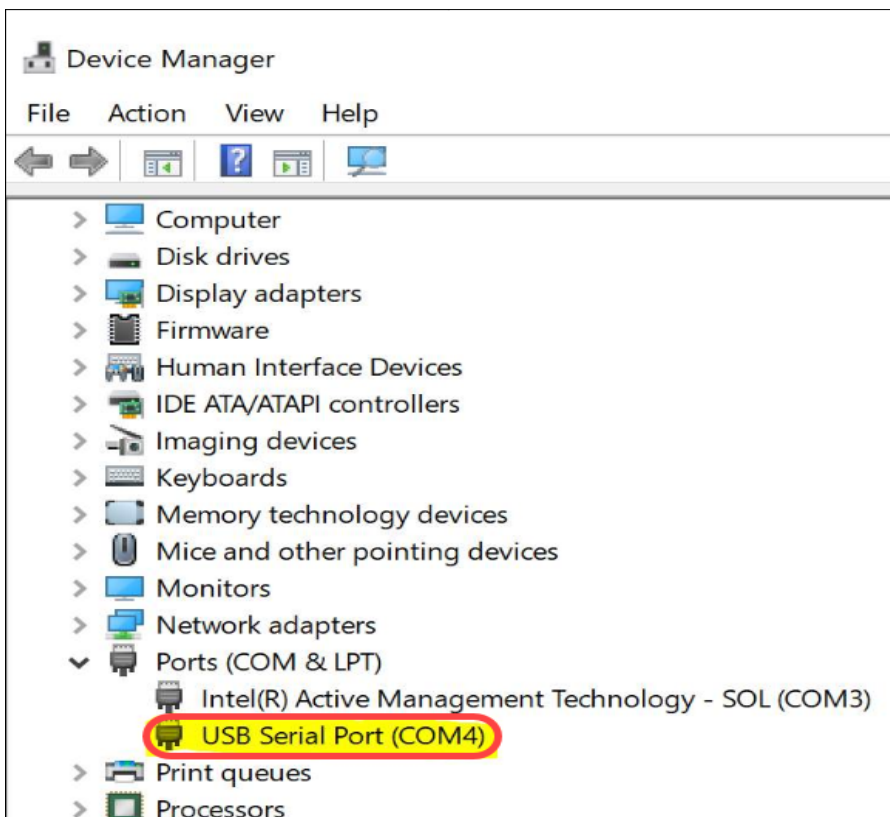
ステップ1：標準の9ピンシリアルケーブルを使用して、スイッチをコンピュータに接続します。

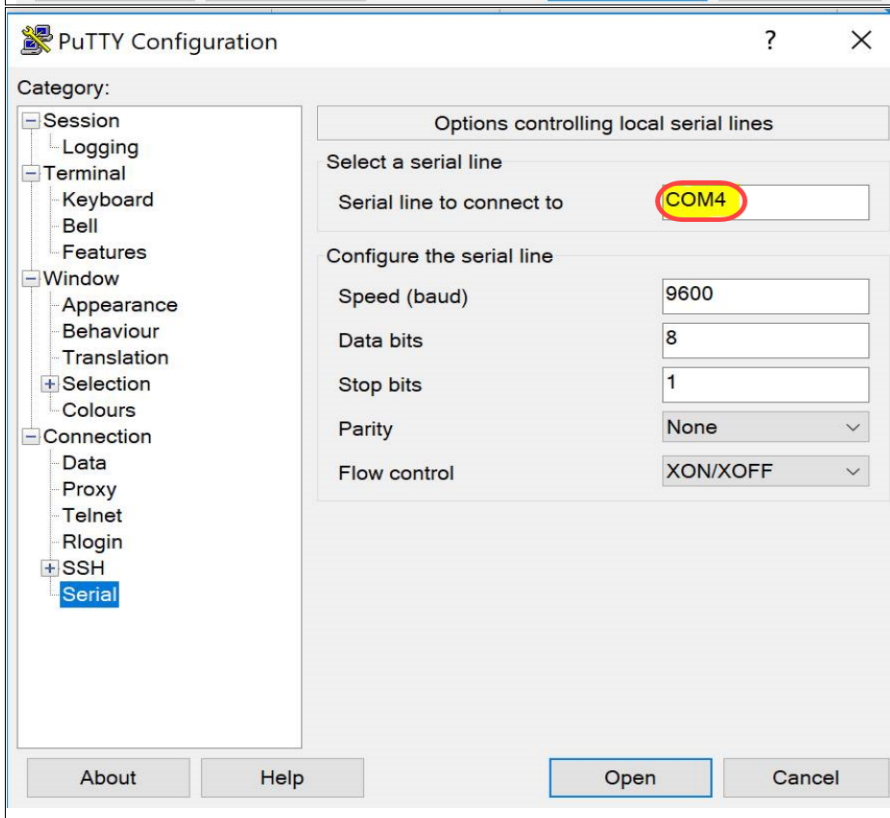
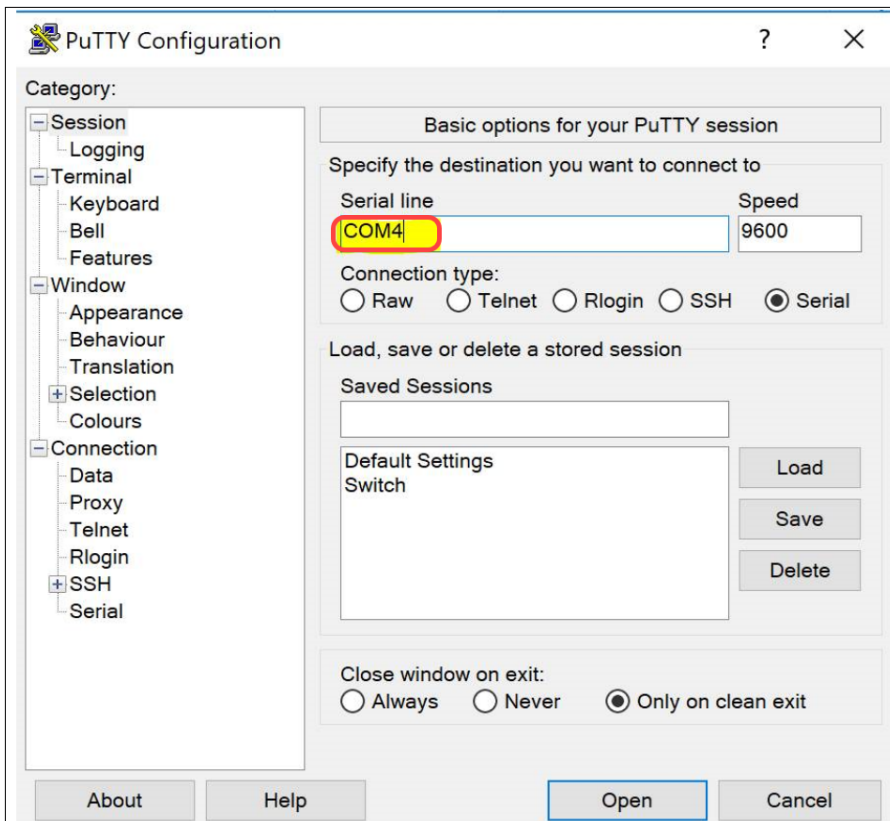
Cisco DB9 to RJ45コンソールケーブルもコンソール接続をサポートしていますが、スイッチにRJ45コンソールポートがある場合にのみサポートされます。RJ45コンソールポートはイーサネットポートに似ており、スイッチの背面にはCONSOLEというラベルが付いています。

新しいラップトップにはシリアルポートがないため、この場合はUSB to Serialアダプタを使用する必要があります。これをコンピュータに接続すると、COM1以外のCOMポート番号が割り当てられます。このような場合は、PuTTYとの接続を設定するときに、正しいCOMポート番号を検索する場所を知る必要があります。Windowsロゴの[スタート]メニューを右クリックし、[デバイスマネージャ]をクリックして開きます。

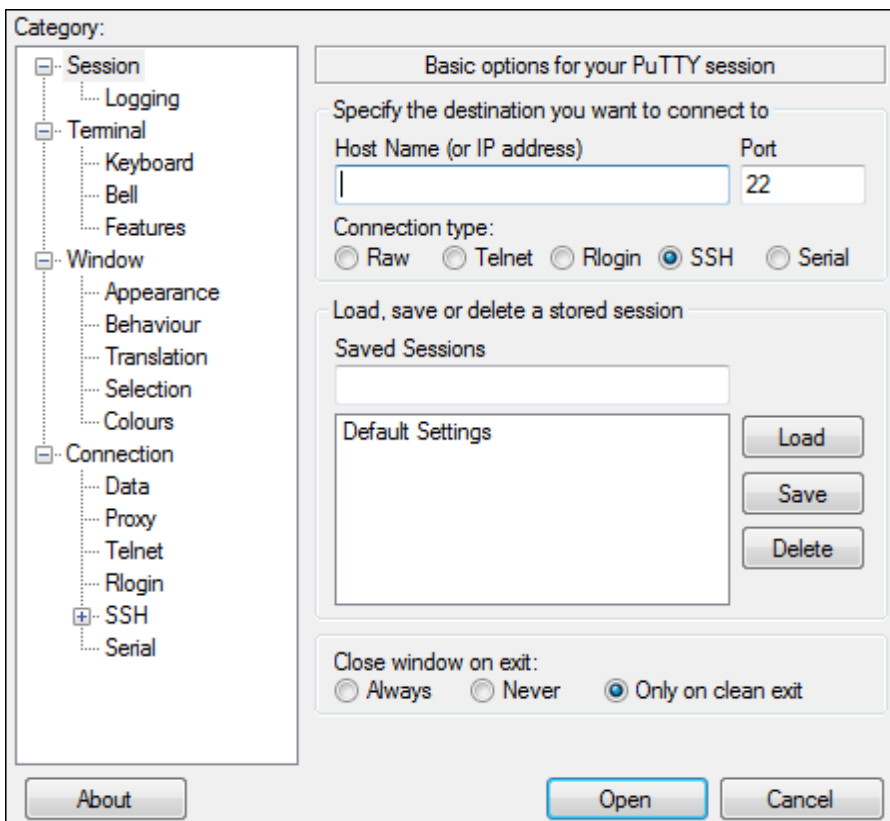


デバイスマネージャで、USBアダプタに割り当てられているCOMポートを確認します。この場合、接続するには、シリアル回線にCOM4を使用する必要があります。

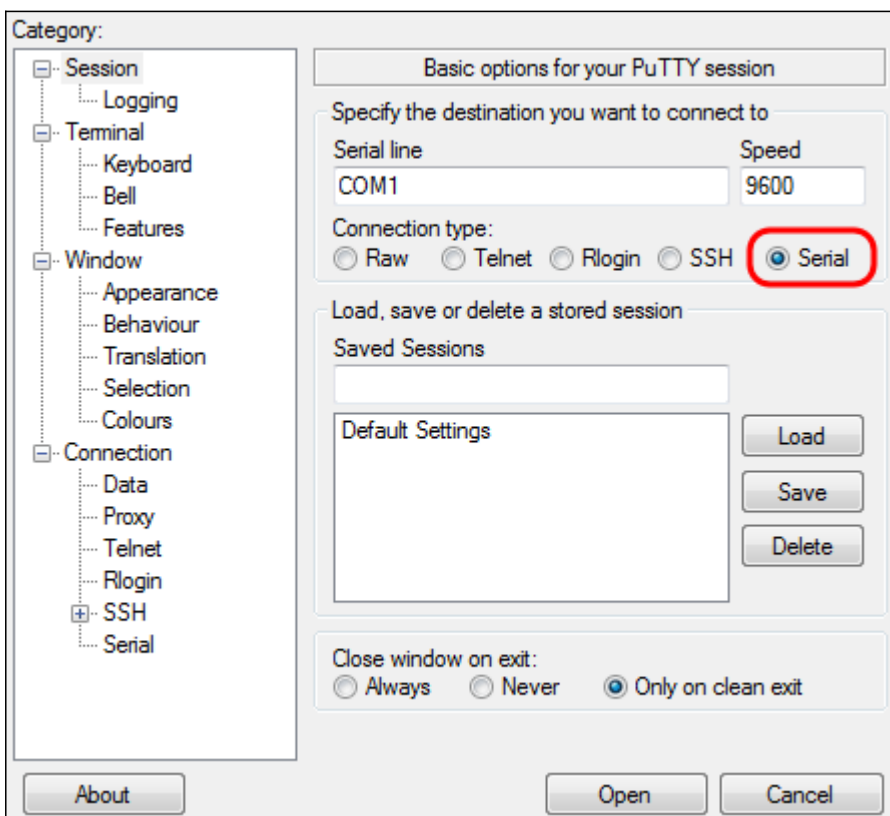




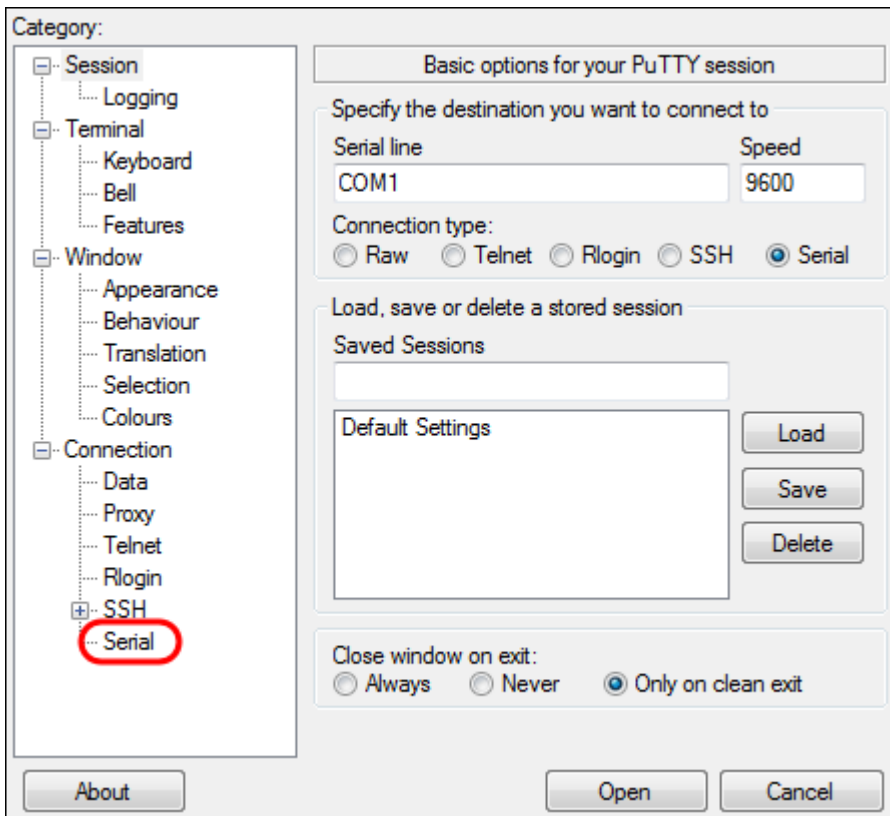
ステップ2:PuTTYアプリケーションを開きます。[PuTTY Configuration]ウィンドウが開きます。



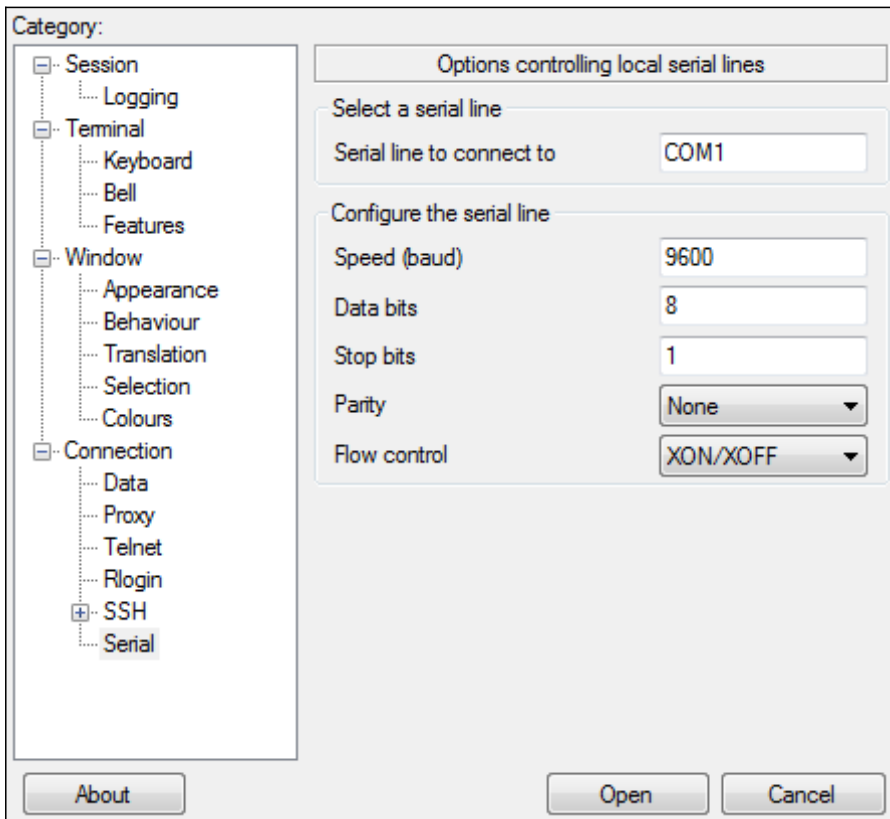
ステップ3:[Connection Type]フィールドで、[Serial]ラジオ・ ボタンをクリックします。



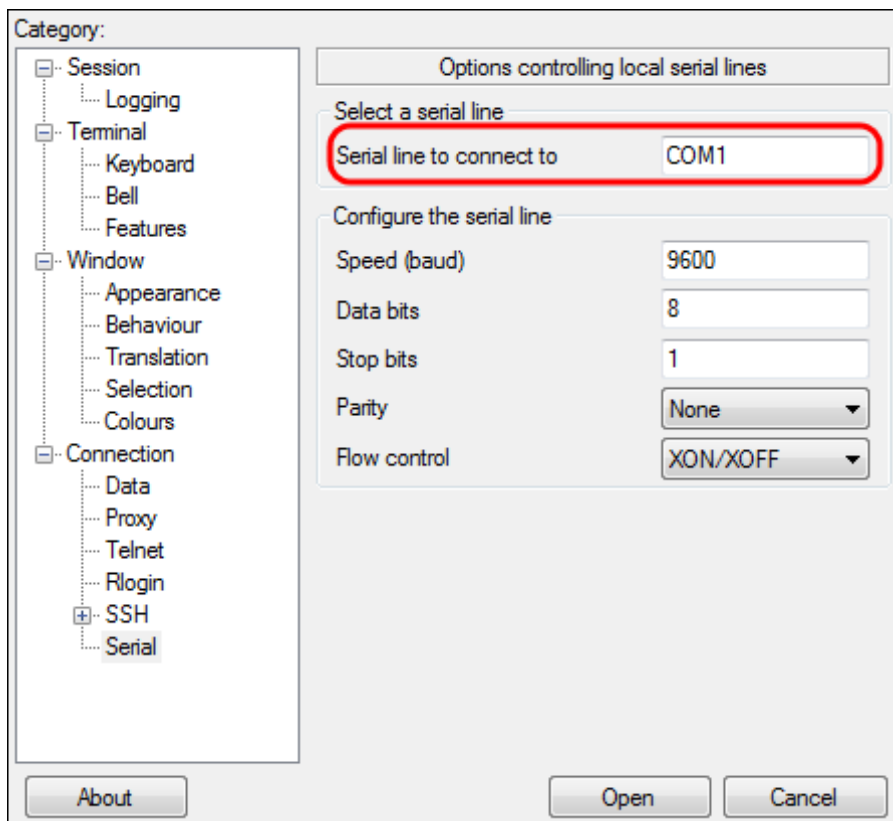
ステップ4:[カテゴリ]ナビゲーションフィールドで、[Serial]を選択します。



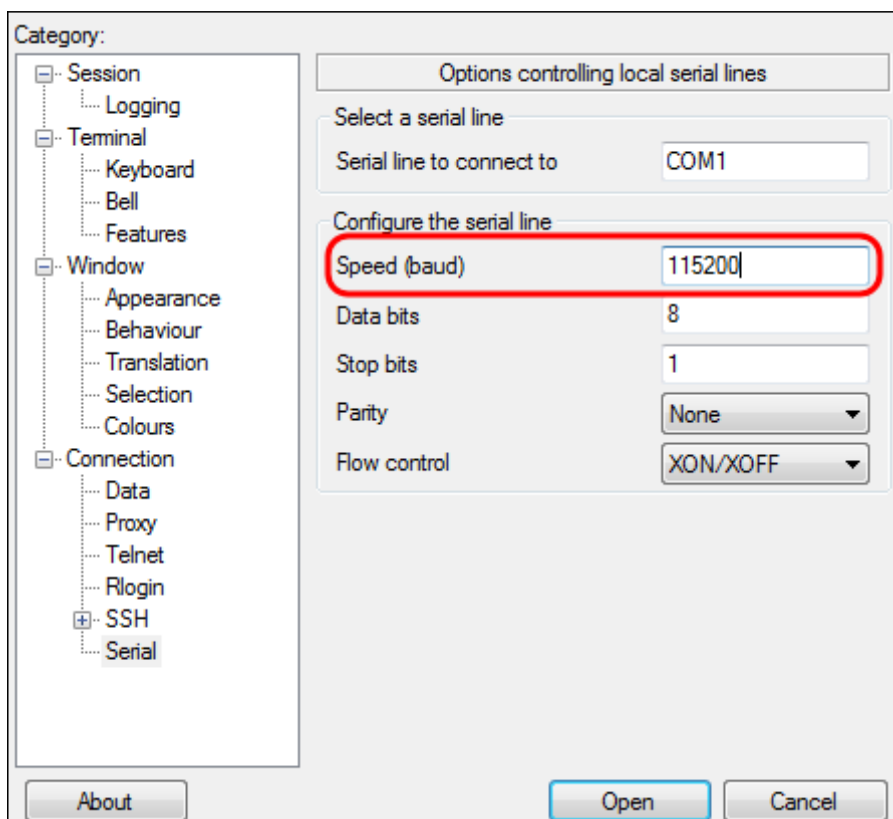
「ローカルシリアル回線を制御するオプション」ページが開きます。



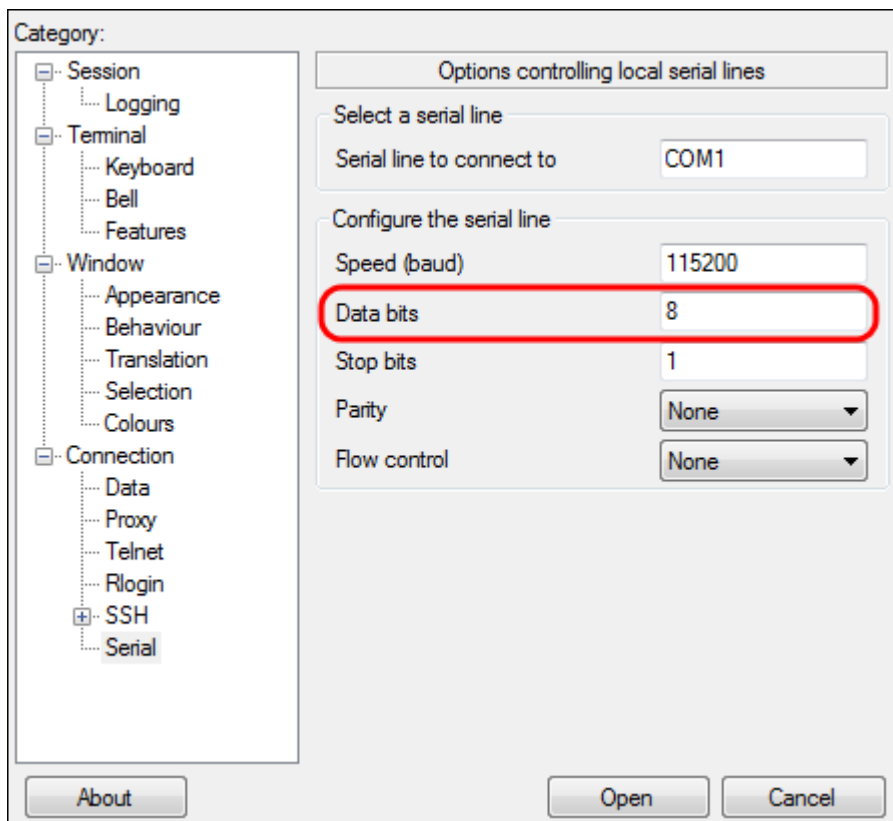
ステップ5:[Serial line to connect to]フィールドに、デバイスが接続されているCOMポートを入力します。デフォルトのCOMポートはCOM1です。



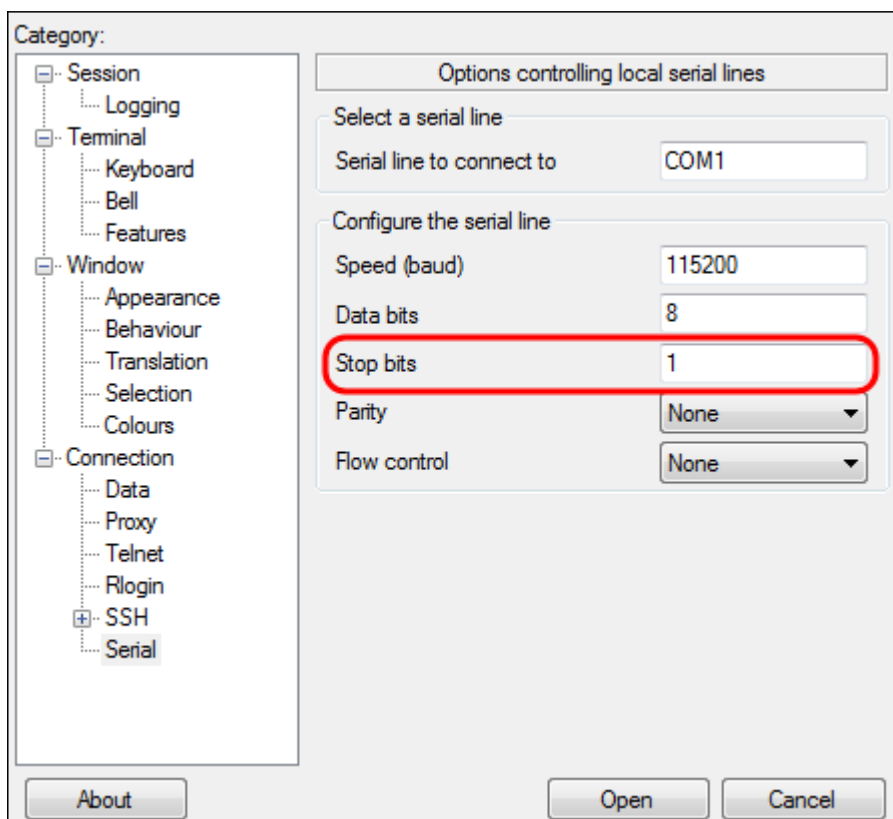
ステップ6:[Speed (baud)]フィールドに、スイッチと互換性のあるデジタル伝送速度を入力します。300および500シリーズマネージドスイッチでは、速度を115200に設定する必要があります。



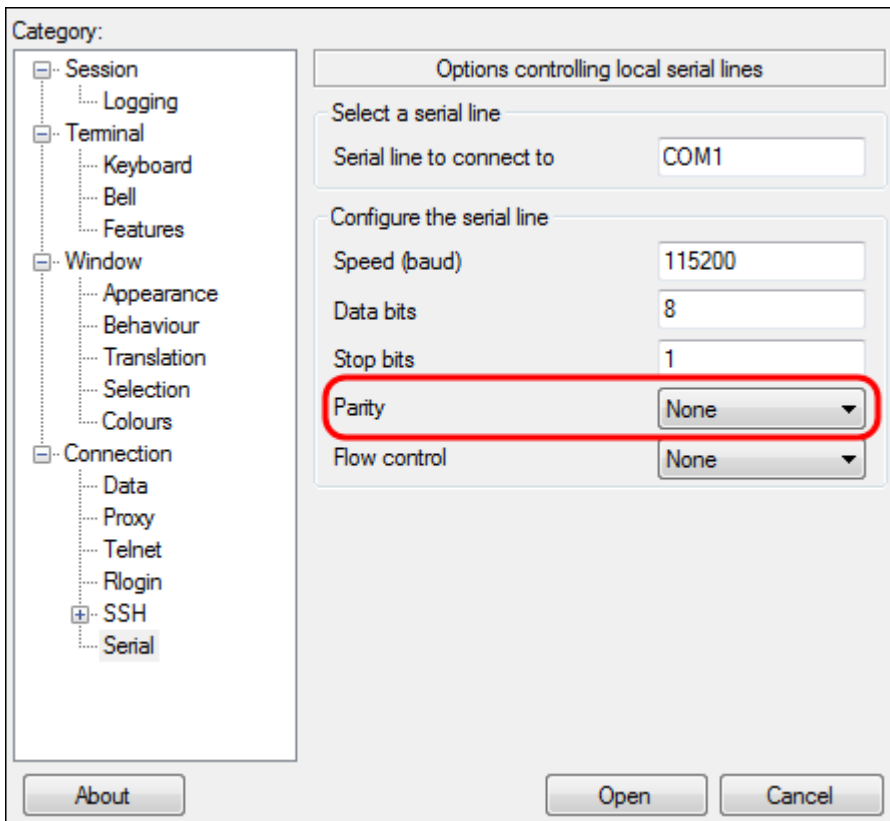
ステップ7:[データビット]フィールドに、各文字に使用するデータビット数を入力します。推奨値は8です。



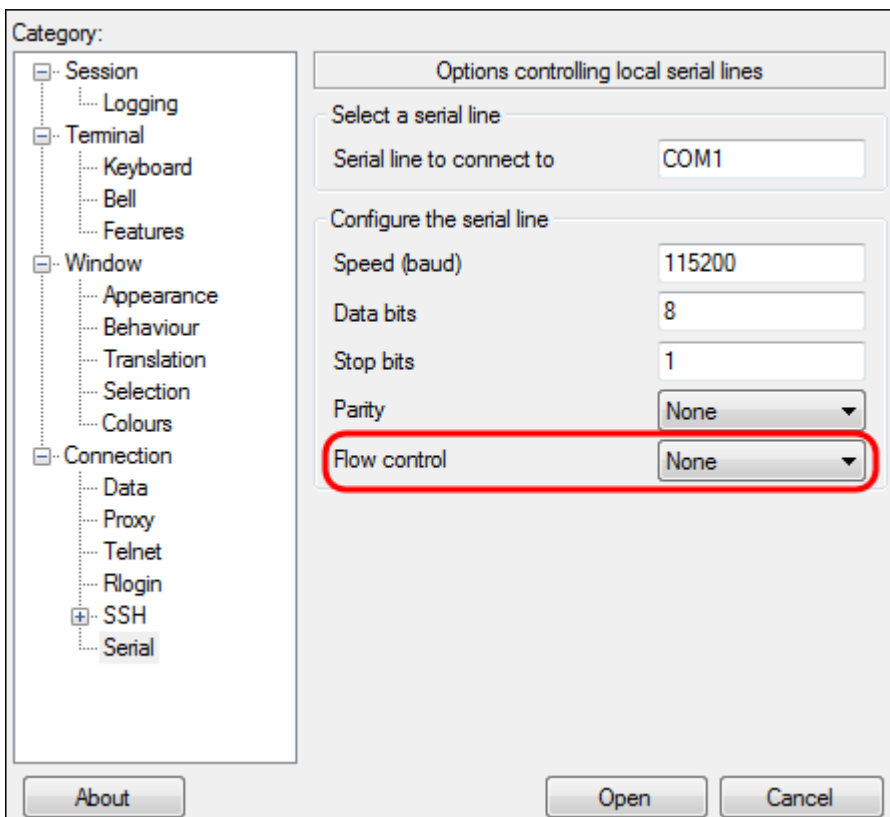
ステップ8:[*Stop bits*]フィールドに、各文字の最後に送信するビット数を入力します。ストップビットは、マシンがバイトの終わりに達したことを通知します。推奨値は1です。



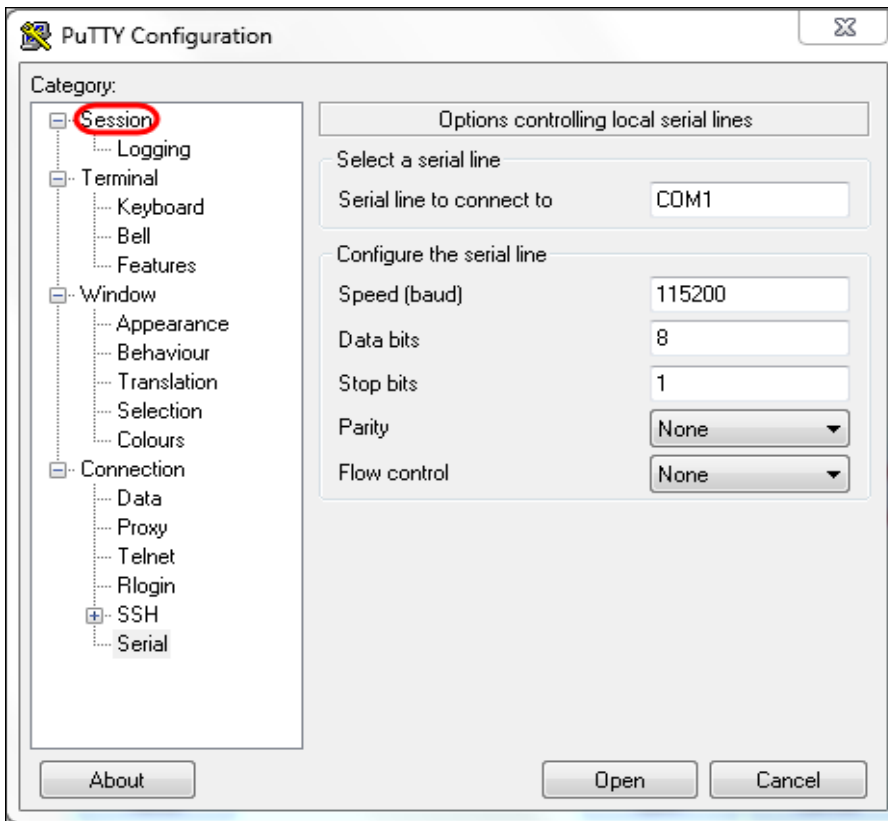
ステップ9:[*パリティ*]ドロップダウンメニューで、送信エラーの検出方法を選択します。送信エラーを検出する推奨方法は[None]です。



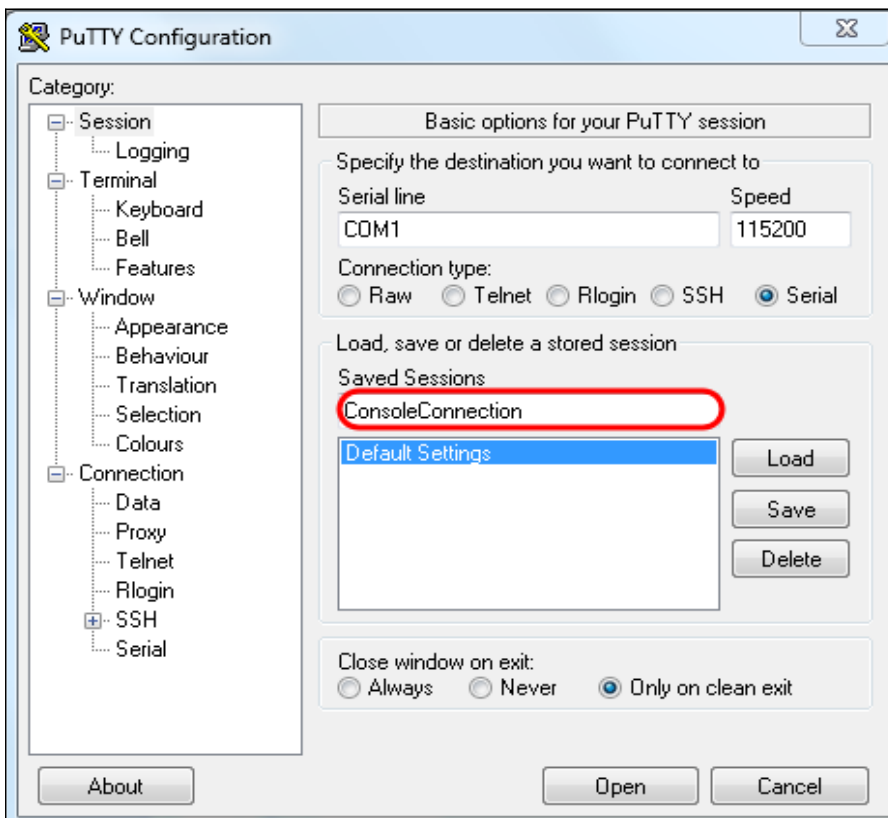
ステップ10:[フロー制御(*Flow Control*)]ドロップダウンメニューで、データオーバーフローを防止する方法を選択します。データオーバーフローを防止する推奨方法は[None]です。



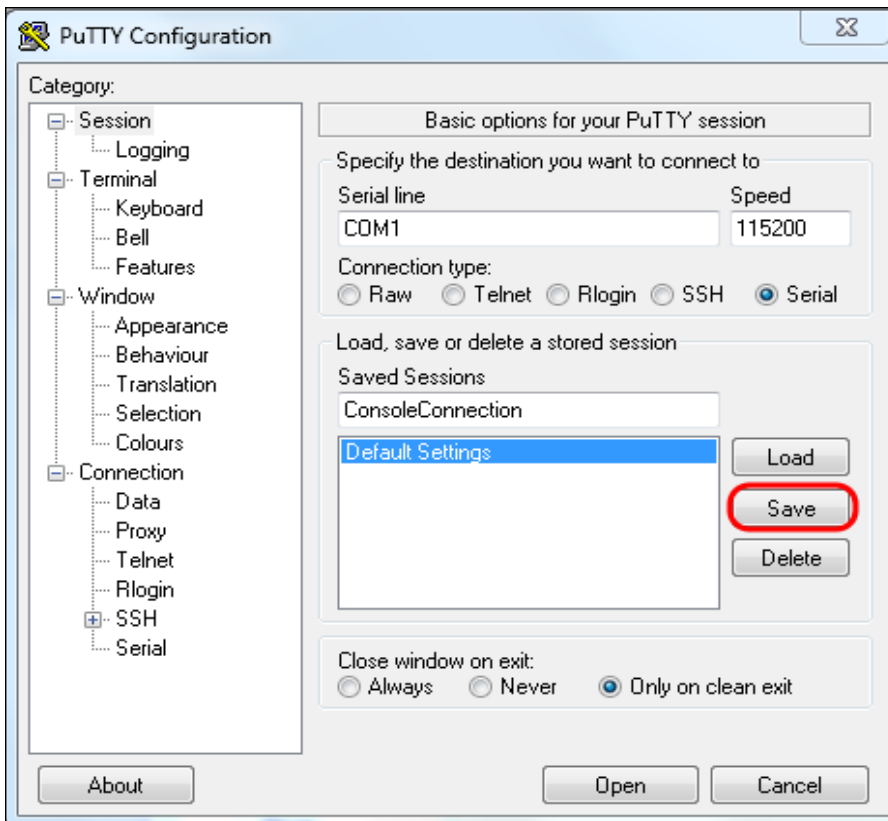
ステップ11:(オプション) 今後の使用のために接続設定を保存するには、[カテゴリ]ナビゲーション・ペインに移動し、[Session]を選択します。接続設定を保存しない場合は、ステップ14に進みます。



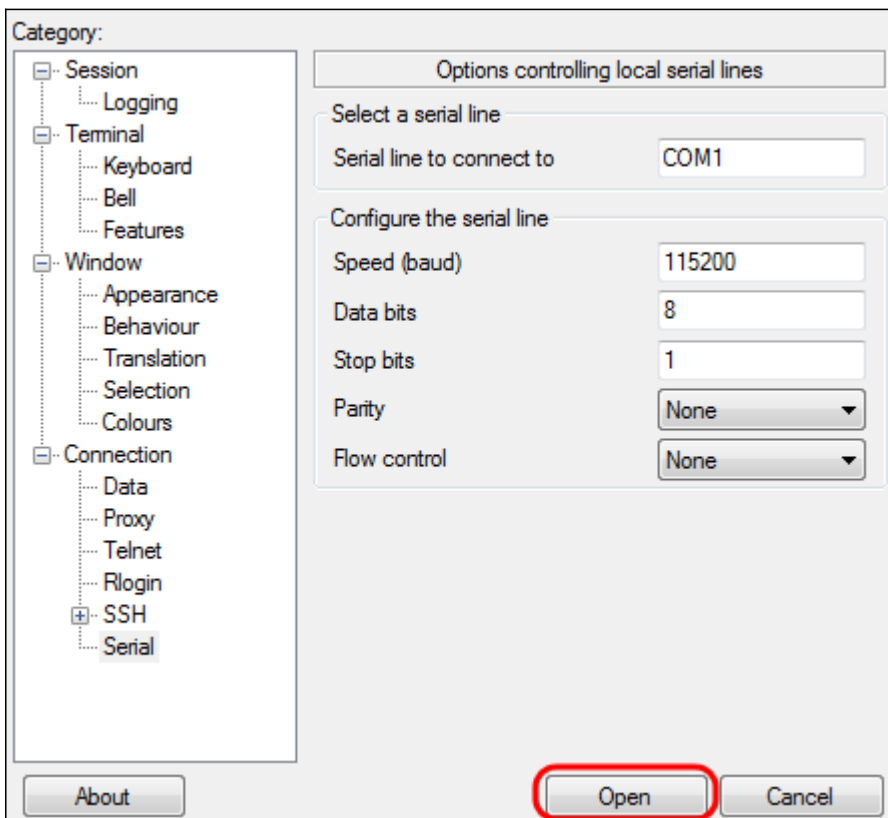
ステップ12:[セッションの保存]フィールドに、保存する設定の名前を入力します。



ステップ13:[Save]をクリックします。



ステップ14:[Open]をクリックします。



[COM1 - PuTTY]コンソールウィンドウが開きます。

ステップ15 : キーボードで**Enter**を押し、コマンドラインインターフェイス(CLI)をアクティブにします。ログインプロンプトが表示されます。

```
User Name:█
```

ステップ16:[User Name]を入力します。デフォルトのユーザ名は *cisco* です。

```
User Name:cisco█
```

ステップ14:[Password]を入力します。デフォルトのパスワードは *cisco* です。

```
User Name:cisco  
Password:*****█
```